

# 「 プ ラ ゴ ム 」

## 施工仕様書マニュアル

### 【設計上の順守事項…アンカーボルトの埋設位置】

アンカーボルトは、以下の位置に埋設してください。なお、3階建の場合は下記によるほか、建築基準法に基づく構造耐力上の安全性を確認した上で、位置を決定してください。

### 《軸組工法》

- イ) 筋交いを設けた耐力壁の部分は、その両端の柱の下部にそれぞれ近接した位置。
- ロ) 構造用合板等を張った耐力壁の部分は、その両端の柱の下部にそれぞれ近接した位置。
- ハ) 土台切れの箇所、土台継手及び土台仕口箇所の上木端部とし、当該箇所が出隅部分の場合は、できるだけ柱に近接した位置とする。
- ニ) 基礎切れの箇所(床下点検口など)には、基礎切れ箇所のどちらか一方に。
- ホ) 上記イ、ロ、ハ及びニ以外の部分においては、間隔2m以内とし、かつ耐力壁線ごとに平均1.2m以内とする。

### 《枠組壁工法》

- イ) 住宅の隅角部付近、土台の継手付近とし、基礎切れの箇所(床下点検口など)には基礎切れ箇所のどちらか一方に、その他の部分は間隔2m以内とし、かつ耐力壁線ごとに平均1.2m以内とする。
- ロ) 1階床を土間コンクリート床で構成する場合で、掃き出し窓を設けた場合は、イの他まぐさ受けが取り付くたて材の150mm以内の部分。

- ◆ 建築基準法および住宅金融公庫監修「木造住宅(枠組壁工法住宅)工事共通仕様書」や「性能保証住宅設計施工基準—木造住宅」に準じてください。

### 【その他注意事項】

- 1: 基礎は住宅金融公庫監修の共通仕様書に定められた基礎と同等以上の布基礎またはべた基礎(立ち上がり有するもの)としてください。
- 2: 「プラゴム」は、防腐・防蟻に有効な手段となりますが建築基準法や住宅金融公庫住宅環境部監修の共通仕様書に定められた防腐、防蟻措置を逃れるものではありません。必ず防腐、防蟻処理を行ってください。
- 3: 「プラゴム」は、木材へのめり込み設計荷重が許容応力度を越えないようにご配慮ください。また土台は以下のいずれかをご使用ください。
  - a. 日本工業規格(JIS)に定める土台用加圧式防腐処理木材
  - b. 日本農林規格(JAS)に定める保存処理木材(K1を除く)
  - c. 認証木質建材(AQマーク表示品)として認証された保存処理木材(1種)
  - d. 上記a~cと同等以上の防腐性能をもつと認められた木材
- 4: 「プラゴム」をご使用の場合、床下換気孔として設ける布基礎の欠損部は必要ありませんが、外周部以外の布基礎には点検用の通路としての欠損部を設けてください。

### 【基礎工事上の順守事項】

「プラゴム」は、基礎天端レベルが±0を基準に作られた商品です。不陸のある場合は基礎天端のレベルが±0となるようにモルタルなどで必ず調整してください。また必要箇所にアンカーボルトが埋め込みされていない場合には、埋め込みと同等の強度が得られる方法(ケミカルアンカーボルト等)にて速やかにアンカーボルトを打設してください。

## 【標準敷き込み箇所】

### 〈共通事項〉

- ①土台の芯線に一致させ敷設してください。
- ②必ず防振ゴムのある方を土台側として敷設してください。
- ③有効換気面積および安全性を確保するため、4m以内の最大敷き込み枚数を必ず守って敷設してください。
- ④防鼠材の取付けを考慮して、軸組工法の場合は土台、枠組壁工法の場合は構造用合板よりも外側にはみ出さないように敷設してください。
- ⑤品質保持のため、切断して使用することは避けてください。
- ⑥大黒柱など集中荷重が想定される箇所には、下記【土台のめりこみに関する検討資料】をもとに必要枚数を敷き込んでください。

### 〈木造軸組工法〉

- ①アンカーボルトのある部分には、必ず敷き込んでください。
- ②柱下など荷重のかかる部分に1枚以上敷き込んでください。
- ③土台継手には、必ず敷き込んでください。
- ④敷き込み間隔は、最大1,000mmピッチ(おおむね半間間隔)以内に1枚敷き込んでください。

### 〈枠組壁工法〉

- ①アンカーボルトのある部分には、必ず敷き込んでください。
- ②耐力壁線の交点に敷き込んでください。
- ③マグサ受けたて枠材下部や同等の荷重が集中してかかる部分に1枚以上敷き込んでください。
- ④構造的たて枠材が3枚以上の場合は、2枚以上を敷き込んでください。
- ⑤基礎立上り部分に点検口等を設ける場合は、開口部の両側に1枚ずつ敷き込んでください。
- ⑥敷き込み間隔は、標準500mm以内、最大750mm以内(床下点検口部)に1枚敷き込んでください。

### 【土台のめりこみに関する検討資料】

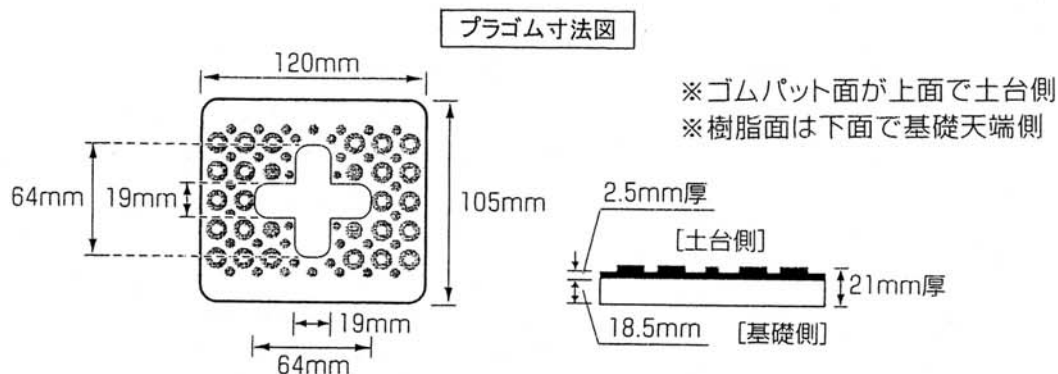
「プラグム」と土台の接触面積から、めりこみ許容限界荷重を算出しました。  
 以下は、土台に「柵」及び「桧」を使用した場合の許容限界荷重です。

土台の寸法	90×90	105×105	120×120
接触面積	88cm <sup>2</sup>	106cm <sup>2</sup>	106cm <sup>2</sup>
柵の許容限界荷重	長期 19.36KN 短期 35.20KN	長期 23.32KN 短期 42.40KN	長期 23.32KN 短期 42.40KN
	長期 25.16KN 短期 45.76KN	長期 30.31KN 短期 55.12KN	長期 30.31KN 短期 55.12KN

※[平成13年告示1024号に基づく集成材等の基準強度]より

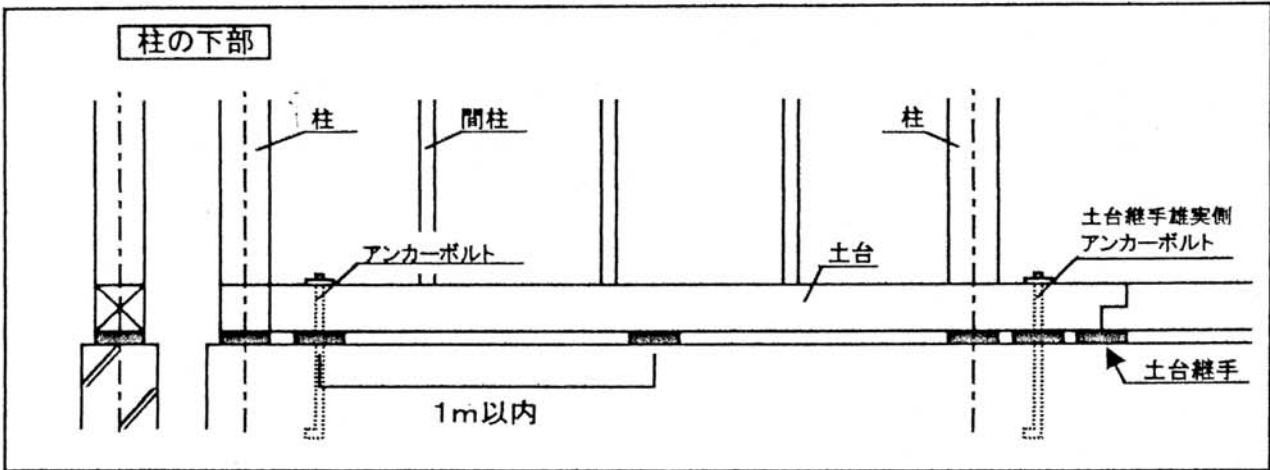
### 【4m以内の敷き込み枚数と有効換気面積の関係】

4m以内最大敷き込み枚数	防鼠材開口率	有効換気面積
14枚	66%の場合	313.89 cm <sup>2</sup>
16枚	74%の場合	315.53 cm <sup>2</sup>

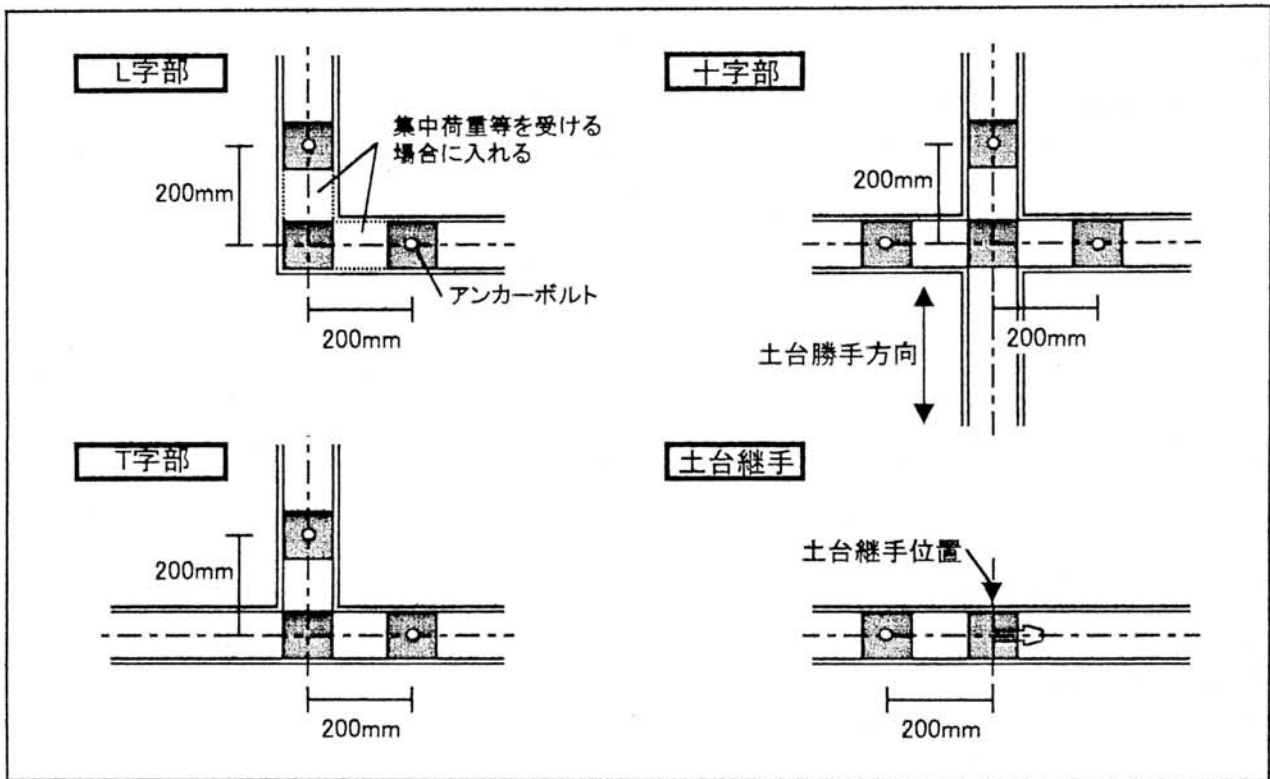


【プラゴム敷き込みパターン参考図】《軸組工法》

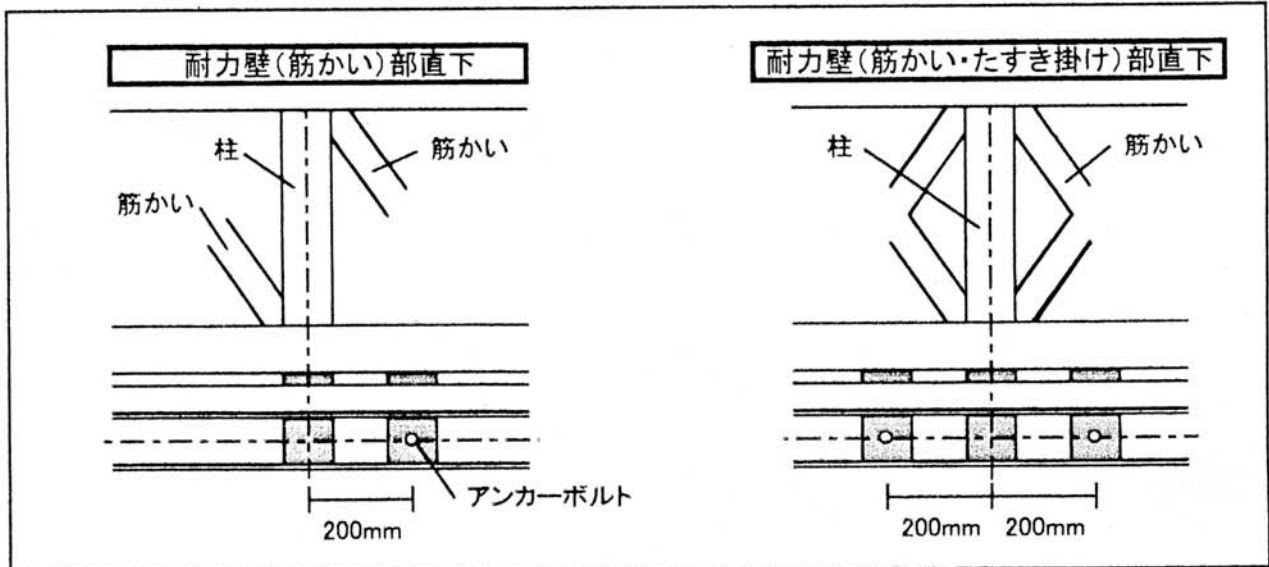
◆一般的な配置(標準モジュールを910mmとした場合)



◆L字部・T字部・十字部・土台継手

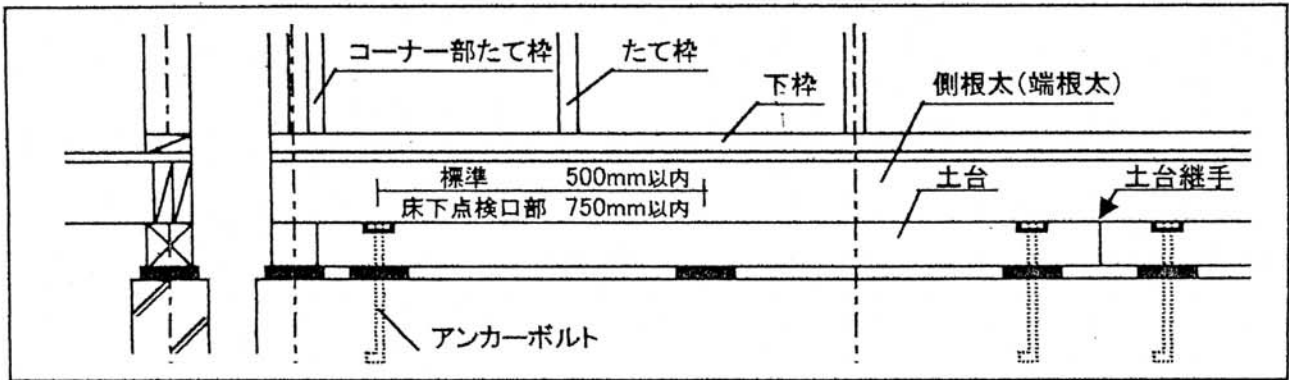


◆集中荷重を受ける部分の直下の土台下部

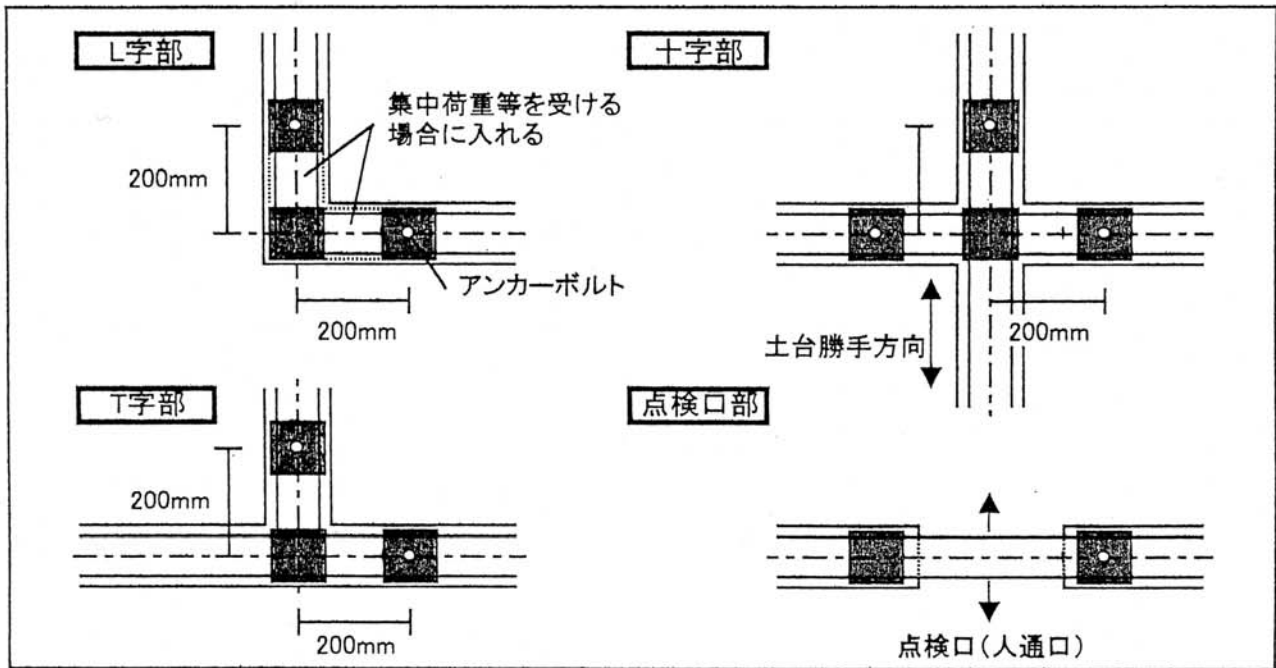


【プラグム敷き込みパターン参考図】《枠組壁工法》

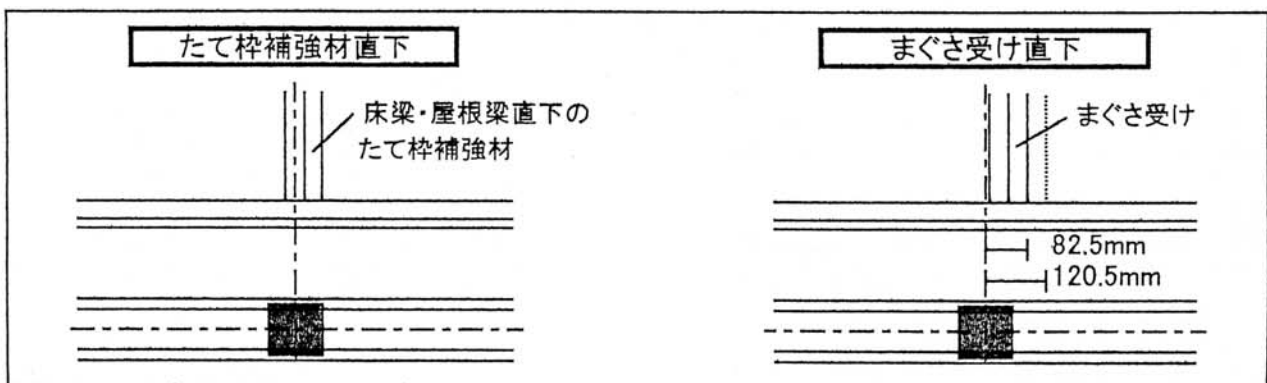
◆一般的な配置(標準モジュールを910mmとした場合)



◆L字部・T字部・十字部・土台継手



◆集中荷重部を受ける部分の直下の土台下部



◆大引をプラグムで受ける場合

